

将来の地域医療を考える

～市立病院・診療所改革プラン

住民説明会の結果～



■表 会場別参加者数

会場 (期日)	昼の部	夜の部	合計
江刺会場 (10/18)	83 人	49 人	132 人
水沢会場 (10/19)	15 人	15 人	30 人
胆沢会場 (10/22)	37 人	28 人	65 人
前沢会場 (10/24)	65 人	49 人	114 人
衣川会場 (10/29)	56 人	54 人	110 人
合計	256 人	195 人	451 人

市は、市立病院・診療所改革プラン案の住民説明会を10月18日から29日まで、各自治区5会場で昼と夜の2回ずつ、計10回開催しました。これは、市がまとめたプラン案を市民に説明し、理解を得るとともに、出された意見を反映させるために実施したものです。市からは、小沢昌記市長をはじめ、健康福祉部長、各病院・診療所の事務長および事務局長などが出席。団塊の世代が75歳以上となる超高齢化社会（いわゆる「2025年問題」）を迎えるに当たり、本市がどのような地域医療体制を確立すべきか、その骨格

となる事項をまとめた同プラン案を説明しました。10回の説明会には、合計で451人が参加（内訳は表を参照）。医療問題は生活に密接に関わることから、参加者は熱心に聞き入っていました。不明な点への質問のほか、賛成の意見、見直しの意見など、全部で149件の発言がありました。本号では、住民説明会で出された意見や、パブリックコメントなどを紹介します。本市の地域医療がどうあるべきか、どのような方向に向かうべきか、考える機会にしましょう。

住民説明会に451人が参加



丁寧に心を込めて革小物を作り上げる

水沢区西町の国道397号沿いに、茶色のタイル張りでおしゃれな外観の店舗が目立つ。村上香苗さんは、革小物やこぎん刺しなどの制作を手掛けながら、雑貨販売業として店を切り盛りしている。高校卒業後、日本歯科大学附属短大を経て、歯科医院に就職。夫の仕事の都合で岩手に移り住んでも、歯科衛生士の勤めを続けた。「子どものころから手作りすることが好きだった」という香苗さんは、水沢区姉妹町に新居を構えて間もない平成

21年、長年の夢だった雑貨販売の「自宅ショップ」をオープン。手作り雑貨販売の道を歩み始めた。ことし5月には、木工やペイントを担当する永山智恵さんと現在の店舗を開店。店舗内でのワークショップも数多くこなしながら、積極的に東北各地のイベントにも出向いている。「さまざまな手作りの物をみんなに見ていただけたら」と目を輝かせる香苗さん。「自分で作る楽しさをもっと知ってもらいたい」と、その情熱は尽きない。

※津軽地方に伝わる刺し子技法のひとつ。一般に青い麻布に白い木綿糸で刺す

〈今月の表紙〉



ふるさとCM大賞 in IWATE 2013（岩手朝日テレビ主催）に、本県で3年後に開催される「希望郷いわて国体」をテーマに出品しました。内容は、市内を会場に熱戦を繰り広げる7競技（ボクシング、バスケットボール、ウエイトリフティング、卓球、馬術、弓道、カヌー）にスポットを当てたCM。今月の表紙は、その中から、選手の真剣なまなざしを集めました。

12月1日に、いわて県民情報交流センター（アイーナ）で審査会が行われ、結果は参加賞。今後、このCMを活用し、国体開催に向けて盛り上げていきます。

キラリ輝く
奥州人
3

手作りの繊細さを伝え
その良さを共感したい

村上香苗さん（44歳）
水沢区姉妹町字南白山



むらかみ・かなえ◎昭和44年青森県八戸市生まれ。雑貨とリフォームの店“cross×lab”を仲間と二人で経営。古物商の免許を持つ。家族は夫と愛犬2匹（茶太郎、マメ次郎）

市民と行政をつなぐ情報紙

広報

おうしゅう

Vol.94

Public Relations Magazine
Oshu City

2013

12

CONTENTS

- キラリ輝く奥州人
- 将来の地域医療を考える～市立病院・診療所改革プラン住民説明会の結果～
- 財政状況の公表
- 市奨学金申請の受け付けを開始
- 市勢功労表彰
- 新年交賀会
祝・百歳おめでとう
- コンビニ交付を利用できる店舗が増えます
年末年始のバス運行日程
- ILC希望のひかり
- まちづくり探訪
- 結-ゆい-
- 地域の窓-自治区情報-
- 市政ズームイン
- まちの話題
- 夢トーク
青春讃歌
- 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 子そだて広場
子そだて行事予定
- 情報あらかると
- 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市